

種名	ジョウビタキ <u>Phoenicurus auroreus</u>												
													
分類	スズメ目ヒタキ科ツグミ亜科												
特徴	冬の庭に縄張りを構える、翼の白い斑のある鳥。中国西部からウスリー、サハリンにかけての地方で繁殖し、日本には冬鳥として全国に普通に渡来して、主に積雪の少ない地方で越冬する。春はツグミなどより早く渡来し、4月にはほとんど姿を見ない。												
生活	越冬期は農耕地周辺、川原、明るい林のヘリなど開けた環境に棲息し、市街地でも普通にみられ、オスもメスも1羽ずつが縄張りを持って生活する。北方から渡来した直後は、テレビのアンテナや電線などの目立つ所にとまってヒッヒッヒッと澄んだ声で盛んに鳴き、くちばしを鳴らすようなカタカタという音も出す。縄張り性が強く、低い枝や杭の上などにとまり、地上を舞い下りて餌をとる。 昆虫類などの小動物のほか、木の実も好んで食べる。繁殖期には森林に棲息し、樹洞に営巣して5～6卵を産む。												
声	繁殖地の韓国やシベリアでは「チューーチョチョ、チュリイチョチョ」とか「フィリーチィチィチョ、チョロリチョリ」などとさえずっていた。冬期は「ヒッ、ヒッ、ヒッ」と細い声で鳴いたり、「クワックワツ」と鳴く。												
見分け方	オスもメスも翼に白斑があり腰と尾の両側は赤褐色。												
時期	(月)	1	2	3	—	—	—	—	—	—	10	11	12
その他	全長 (L) 15cm 翼開長 (W) 22cm												
参考文献：山溪カラー名鑑 日本の野鳥													